

メッセージアウトライン ローマ16：1～5a 「パウロのあいさつⅠ」

[1] 「ケンクレヤにある教会の執事で、私たちの姉妹であるフィベを、あなたがたに推薦します」 「ケンクレヤ」…パウロが今滞在しているコリントから東へ約15キロほどの港町。そこにも教会があった。フィベはその教会の執事であった。パウロは彼女をただ紹介するだけでなく、「推薦」する。これは彼女をローマのクリスチャンたちと同じように扱ってほしいとの配慮に満ちたことば。彼女は何らかの用事でローマに行くことになっていた。パウロはこの「ローマ人への手紙」を彼女の手託したと考えられている。

[2] 「どうぞ、聖徒にふさわしいしかたで、主にあつてこの人を歓迎し、あなたがたの助けを必要とすることは、どんなことでも助けてあげてください。この人は、多くの人を助け、また私自身をも助けてくれた人です」

この2節のことばにもにもパウロの愛に満ちた暖かい配慮を感じる。2節後半のことばからわかるように、彼女はたぶん社会的にも有力な女性であつて、他のクリスチャンたちやパウロのために喜んで物心両面において助けた人であつたのだろう。このケンクレヤのフィベまたピリピの紫布の商人ルデヤ(使徒16章)、その他の名もない女性たちが教会を陰で支えパウロのような伝道者たちを受け入れ援助していたことは確実であり、教会の健全な成長は彼女たちのような人々の助けによるところが大きいと考えられる。

[3-4] 「キリスト・イエスにあつて私の同労者であるプリスカとアクラによろしく伝えてください。この人たちは、自分のいのちの危険を冒して私のいのちを守ってくれたのです。この人たちには、私だけでなく、異邦人のすべての教会も感謝しています」

彼らは最初ローマに居住しており、ローマ皇帝クラウデオの、すべてのユダヤ人をローマから退去させるようにとの勅令によりコリントへ移動してきており、そこで第2回伝道旅行中のパウロと出会った。→使徒18：1～3 彼らの職業は天幕作りであり、パウロも同業であつたので一緒に住んで仕事をするようになった。その後、パウロがコリントを去ってエペソに行ったときには彼らも同行した。→使徒18:18 パウロはそこからさらにエルサレムに向かったが彼らは引き続きエペソに滞在した。彼らはあの雄弁なアポロがエペソに来た時には家に招き入れ、神の道をもっと正確に説明し、アポロがアカヤへ渡りたいと思っていた時、彼らはそのための推薦の手紙を書いた。→使徒18:24～28

その後、何年かして、ユダヤ人がまたローマに住めるようになった時、またローマへ戻つたと考えられる。3-4節から、彼らのパウロに対する協力がいかに献身的、犠牲的、命がけですばらしいものであつたことがわかる。彼らはユダヤ人も異邦人も分け隔てなく助け、献身的に奉仕した。それゆえ異邦人のすべての教会も感謝しているのである。

[5a] 「またその家の教会にもよろしく伝えてください」 彼らは自分たちの家を解放して集会を持ち、家の教会としていた。このような小さな群れに対してもパウロはおろそかにせず、暖かいことばをかける。ケンクレヤのフィベ、プリスカとアクラ、彼らがなしたことは良き模範となっている。福音のため、神のためになしたことはいつまでも神の前に覚えられている。私たちもそのように生きる者になりたい。